

胸いっぱい希望をこめて 海王丸記念財団設立



1. 「海の貴婦人」を富山へ

昭和五年に建造され、半世紀余りの永きにわたり大海原で活躍し、青少年に海へのロマンを与えてきた美しい大型帆船「海王丸」。「海王丸を富山へ」との熱い思いが通じ、富山で保存、活用されることになりました。

県と大阪市が共同出資し、設立した「海王丸記念財団」へ九月十八日に引き渡され、来年四月には富山新港で公開の予定です。以後、富山と大阪で四年半毎に交互に公開されます。

海王丸誘致までの歴史

S 56・10・29	海王丸が富山新港に寄港
S 58・6・6	一般公開（見学者三万六千人） 「海王丸を富山に呼ぶ県民の会」設立総会
S 61・10・16	海王丸が二度目の富山新港寄港、一般公開（見学者八万二千二人）
S 62・12・1	富山県知事、県民の会会長らが運輸大臣ほか関係機関に「海王丸」誘致を陳情
H 元・3	海王丸誘致決定
H 元・7・12	「財団法人・帆船海王丸記念財団」設立発起人会
H 元・8・21	海王丸財団設立認可
H 元・9・12	海王丸財団設立総会
H 元・9・21	海王丸購入
H 2・4	海王丸一般公開（富山県） 1966年10月まで

海王丸 一口メモ

全長九七メートル、二、二四二トンで四本のマストを持った大型練習船として昭和五年に進水。以来、六十年間に百九十万キロメートル、地球五十周余りを航行。一万五千人以上の船員がここから巣立った。

2. 海王丸の活用計画

県では、二十一世紀に向けての環日本海交流拠点のシンボルとして、また、次代を担う青少年にとつてまたとない錬成の場として、さらに人々の出会いと交流の場として、海や港湾に対する理解と知識の増進にも海王丸を役立てたいと考えています。

海王丸の一般公開

来年四月の公開に合わせて、甲板や船長公室、士官サロン、士官室、実習生室、機関室を自由に見学、船長私室、浴室、事務室、実習生浴室、医務室を強化ガラスで仕切り内部を覗きながら見学します。

また、オーブニングセレモニーや地域特色を生かした各種イベントをゴールデンウィーク期間中に開催するほか、月一回の総帆展覧、さらに海王丸フォトコンテスト、海王丸生誕日記念行事、海王丸図画工作教室を計画しています。

この他、日本海交流拠点のシンボルとし、沿岸諸国との友好交流の施設としても活用。海洋性スポーツ、レクリエーション大会、環日本海交流大会などのイベントも開催する予定です。

今年度は、海王丸公開のための案内パンフレット、ポスター、テレホンカードなどを制作します。

海王丸を海洋・海事思想普及の生きた教材に

海洋教室を開設し、既存の「青少年の家」や「少年自然の家」等との連携をとりながら臨海型の「青少年の家」として活用。内陸県との交流の場とします。具体的には、海洋少年団などの青少年を海王丸に宿泊させ、甲板清掃、手旗信号、ひも結び、登りよう訓練や操帆訓練など帆船ならではの訓練や講義などを通じ、海や船について学習したり、チームワークづくりなどに活用していきます。

また、一般成人を対象に帆船の機能や海王丸での船内生活、活躍の歴史他、日本海についての文化・科学などの理解を深める講座を通じ、海に親しむ気風を育てていきます。

